巻頭インタビュー

タオ指圧創始者

遠藤 喨及 先生に聞く!

今回は、タオ指圧の創始者で和田寺住職、そしてアースキャラバンの企画者として世界規模で活躍されている遠藤喨及先生をお訪ねして、タオ指圧の土台となった経絡指圧やバックボーンとなった仏教のお話などをお伺いしました。タオ指圧が、手技にとどまらず、地球規模での世界の浄化に寄与するというお話にも深い感銘を受けました。

ロックバンドの仲間から指圧を教わる

本誌：世界的なご活躍に注目しておりますが、ニューヨークにお住まいだったとか。

遠藤：10歳から13歳までです。ちょうどロックフェスティバルの先駆けであるウッドストックなどが話題になっていたころです。

本誌：手技療法との出会いについてお願いいたします。

遠藤：ロックバンドをやっていたのですが、メンバーの中に独学で指圧を学んだものがいて、やってもらうと、世の中にこんな気持ちのいいものがあるのかというくらい素晴らしくて…。その後、私も浪越徳治郎先生の本を読んで、見よう見まねでやるようになりました。そのころ私が住んでいたのは、高円寺にある「東京の三大ぼろアパート」といわれるようなアパートで、ミュージシャンや劇団員、いわゆるバックパッカーという外人の旅行者などが住んでいるようなところでした。

本誌：漫画家が集まっていたトキワ荘のようなところですね。

遠藤：まさにそうです。そしてそのアパートの住人達に、外人も含めて指圧をしてあげると非常に喜んでくれて、「これならアメリカで稼げるぞ」なんて言われたのです。それでまずは正式な勉強をしようと思い、日本指圧学校に入り免許を取得しました。20歳の時です。この指圧学校の同級生に増永先生の経絡指圧の講習会に参加している人がいて、指圧学校の卒業後になるのですが、私も増永先生の講習会に参加し、深い感銘を受けたわけです。

●お問合せ先：タオサンガ・センター
〒165-0089 東京都中野区野方1-5-11　TEL. 03-3385-7558
http://taoshiatsu.com　officetao@gmail.com
アースキャラバン2015専用サイト　http://www.earthcaravan.jp/

— 利他の心を地球規模で広げよう！ —

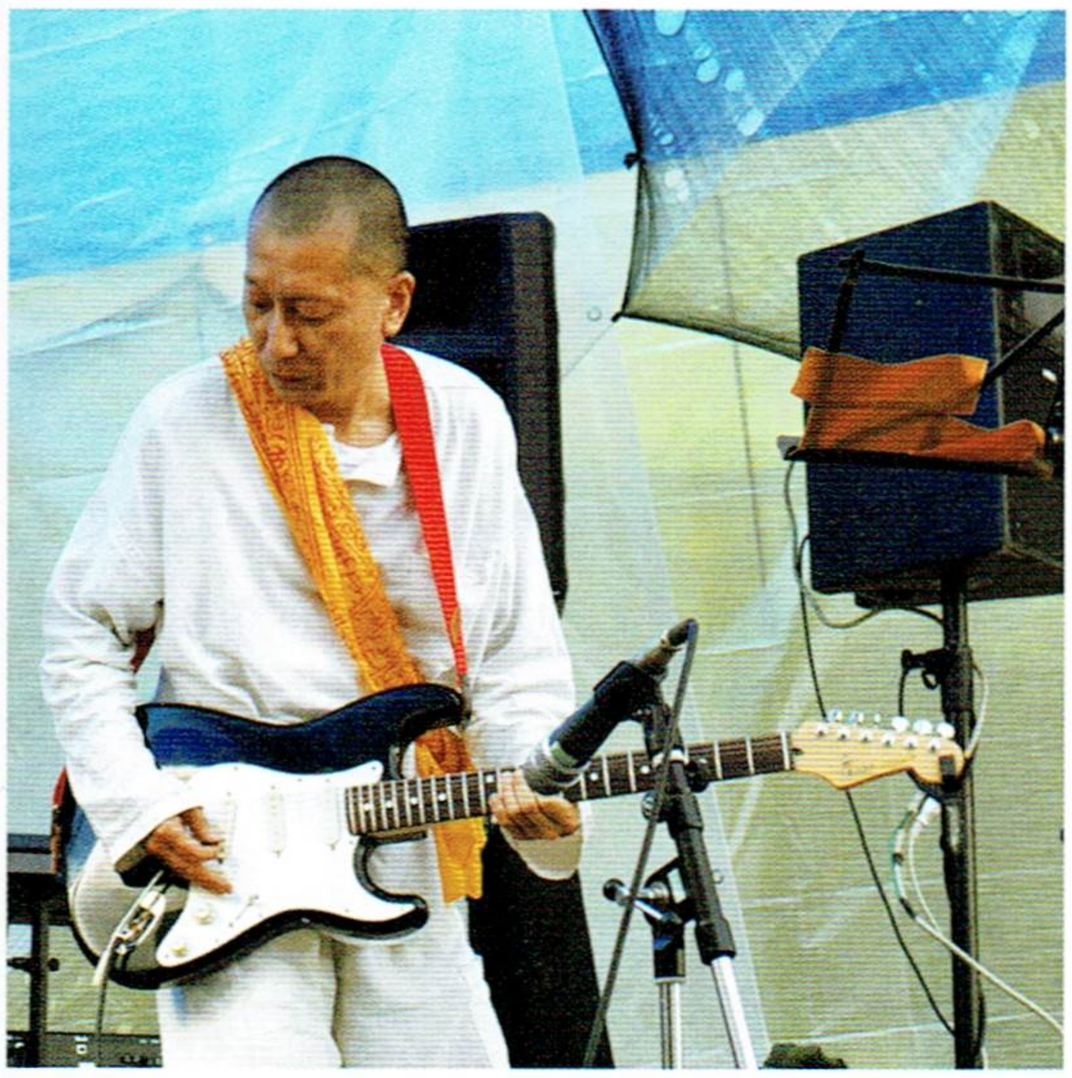
自分を超えたところに指圧の神髄がある！

遠藤 喨及（えんどう・りょうきゅう）

東京に生まれ。1966年より1969年まで、3年間米国ニューヨークに暮らす。十代の頃からロックバンドを結成し、その音楽活動で得た神秘体験をきっかけに仏道修行に励むようになる。バンド仲間から指圧の世界を知り、1978年、指圧専門学校に入学。卒業後、故増永静人師の経絡指圧の講習に参加。1988年、中央仏教学院を卒業。1990年、浄土宗の僧籍に入る。1992年から、タオ指圧＆気心道をアメリカ、カナダ、ヨーロッパ、中東、オーストラリアなどで指導する。現在は、仏教修行、タオ指圧臨床、NPOで海外支援するタオサンガ・インターナショナルを主宰。また今年は、原爆の残り火を持って広島からエルサレムまでの世界各地で巡礼する「アースキャラバン」を開催する。『<気と経絡>癒しの指圧法』、『決定版タオ指圧入門』（いずれも講談社）などの著作、ミュージックCD『アミリタ』（MIDI）など多数。

本誌：どのような感じでしたか。

遠藤：経絡を用いる指圧というものは、かくも奥が深いものなのか！　と…。増永先生の施術は、その場で実際的な効果を上げることができ、しかも深い哲学的な背景があることに感動したのです。でも、自分でやってみても、どうしても経絡が分からなかった。講習も一通り全部受けたのですが、よくわからない。それで独自の研究を3年ほどやりました。

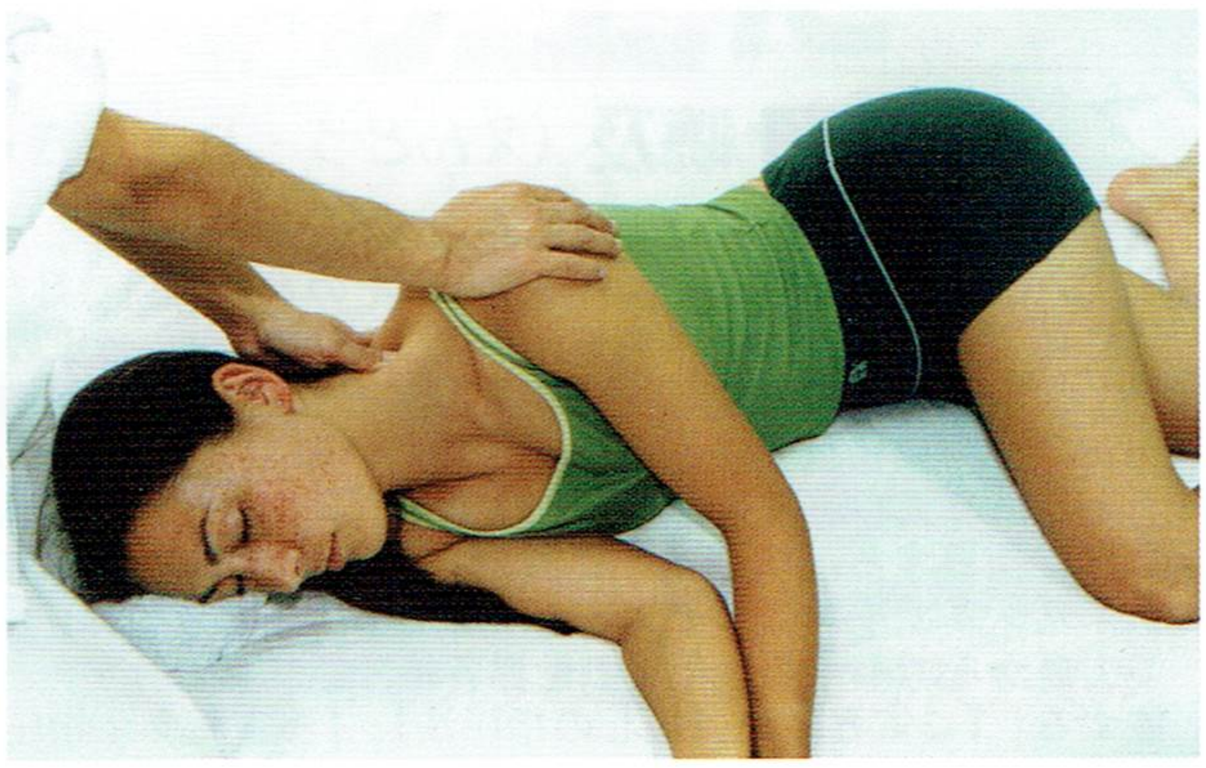


バンド活動の様子

本誌：どういうものですか。

遠藤：いろんな人に頼んで、自分がここだと思うツボを施術させてもらい、研究していたのです。これは、鍼灸に伝わる経穴でなく、自分が考えていたツボです。これには響きがあったし、これにしたがって施術していれば効果があったんです。これをひたすら実践していたら、ある時突然、経絡が見えるようになって、証診断ができるようになりました。このときは、たまたま増永先生の講習会を受けていた時の同級生が開業するので手伝いに来てくれと言われ、初めてちゃんとした治療所で指圧をやっていたのです。そこで響きのあるツボを施術しているうちに、患者さんはどんどん治っ

タオ指圧のデモンストレーション



ていった。それで1日10人ぐらいひたすら施術をやっていたら、ある日、目からウロコが落ちるように経絡が見えるようになり、証が取れるようになった。それは増永先生が亡くなった年（1981年）でした。治療所の手伝いが終わったら、増永先生のところへお会いしに行こうと思っていたのですが、先生のご逝去を週刊誌で知りました。泣いてしまいましたね。

増永静人先生の経絡指圧を受け継ぐ

本誌：増永先生の経絡指圧を受け継ぐという気持ちがおありでしたか。

遠藤：証診断ができるようになってからは、そういう気持ちしかなかったですね…。

本誌：仏教の方はいつ頃からの経緯で。

遠藤：19歳ぐらいの頃には、念仏修行を始めていました。

本誌：仏教的なものと経絡のつながりというのはどのようなものでしょうか。

遠藤：増永先生も般若心経の読誦をされていましたし、私も、仏教の修業をしていなかったら経絡の認識はできなかったと思います。ところで仏教には、いろいろな系統があるのですが、大乗仏教の修行の基本は、イメージ・トレーニングなのです。特に念仏では、仏の姿をイメージすることが基本です。これが経絡にどういう意味を持つかといいますと、このイメージ・トレーニングは、自己存在の奥である宇宙の根源をひたすら認識していくことになるのです。言わば、心の奥の奥にずっと入っていくのですね。そして、その奥の行き着いたところの果てには何があるのか、というと、自他を超えた世界。自分と他人、自分と世界などの対立を超えた世界です。実は経絡というのは、この世界に属するものなのです。経絡は、通常の認識対象ではなかったのですね。だから私も、ある時期まで、経絡が

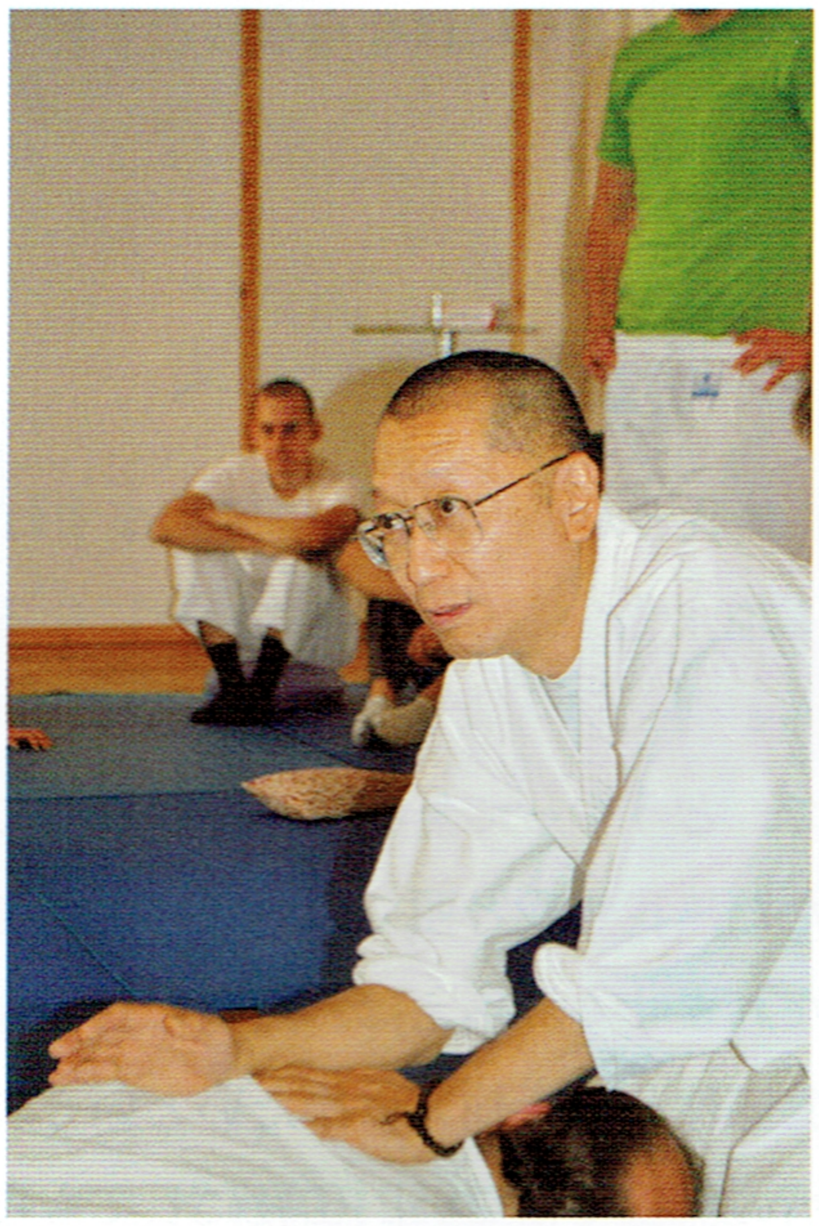
わからなかったのです。でも私たちは、通常、客観として対象を認識しています。だから経絡も同じように客観対象として認識しようとしてしまう。これは、カップルがお互い年収や身長を計って、愛を育てようとしているようなものですから、経絡は分からないのは当然です。主観と客観の奥に経絡があるということは、経絡は、他者の肉体の奥に存在しながら、同時に自分の心の内奥にあるということです。外でありながら内にあり、内にありながら外として存在するもの、これが経絡です。これは単なる哲学ではなく、はっきりとした実感です。また施術の実践によって証明できるものなんです。経絡を診るときは、相手の存在の内奥にある、自分の心の内奥を同時に見ていなければいけません。だから私が、大乗仏教のイメージ・トレーニングによって、存在の内奥と心の内奥に入っていく修行をしていなかったら、経絡を認識したり診断治療をできるようにはならなったと思います。

仏教を学んで主観・客観を超える世界へ

本誌：無我とかいう言葉もございますね。

遠藤：増永先生も、「指圧は無我になる修行である」という言葉を残されています。そこで、どうやって無我になるかなのですが、ただ無我無我と頭で言うだけでは無我にはなれません。例えば、無我と言いながら、共感性もなく他人に冷たいというのでは本当の無我ではない。仏教にしても指圧にしても、本当の無我というのは、増永先生が言われたように、他者のことを想って自己を忘れることが基本です。自分に対する関心を超えたところに、無我はあるのです。そういう意味で、指圧における無我と、仏教における無我は、本来ひとつだと思います。無我、そして経絡診断の世界の基本

海外でのタオ指圧の講演とデモンストレーション治療



海外でのタオ指圧の講演と
デモンストレーション治療

は、他者の悲しみにも喜びにも共感する心。すなわち、他者の幸福に最大の関心を持つことに他なりません。ヘレン・ケラーは、「人がお互いの幸福に責任を持つようにならなかったら、世の中は変わらない」という言葉を残しています。今の世の中の最大の不幸は、誰もが他者の幸不幸に関心や責任を感じないことだと思います。お互いの幸不幸に関心のない人間関係ほど貧しいものはありません。自分のことだけしか思わない人が集まった社会に生きていて、人が幸福なはずがありません。逆に言うと、お互いに相手の幸福に責任を持つ関係が、いちばん人間関係として健全で、社会としても健全です。このような世の中こそが平和だと言えるのです。

本誌：その実践活動が、アースキャラバンということですね。

遠藤：はい。いま申し上げたことを世界各地で実践するのがアースキャラバンです。

原爆の火をエルサレムで平和の火に

本誌：まさに地球規模ですね。

遠藤：アースキャラバンではピースコンサートの他にチャリティマーケットも行います。チャリティーですから、出店者さんたちにも、純益をすべてチャリティして頂きます。そのお金はガザやルワンダなどへ送ります。アースキャラバンの活動はすべて利他が基本です。ですから自分の中では、こうした活動も指圧も仏教も音楽も、全部ひとつなのです。

　アースキャラバンでは、原爆の残り火を広島からエルサレムまで持っていきます。広島から東京までは800kmを自転車で運

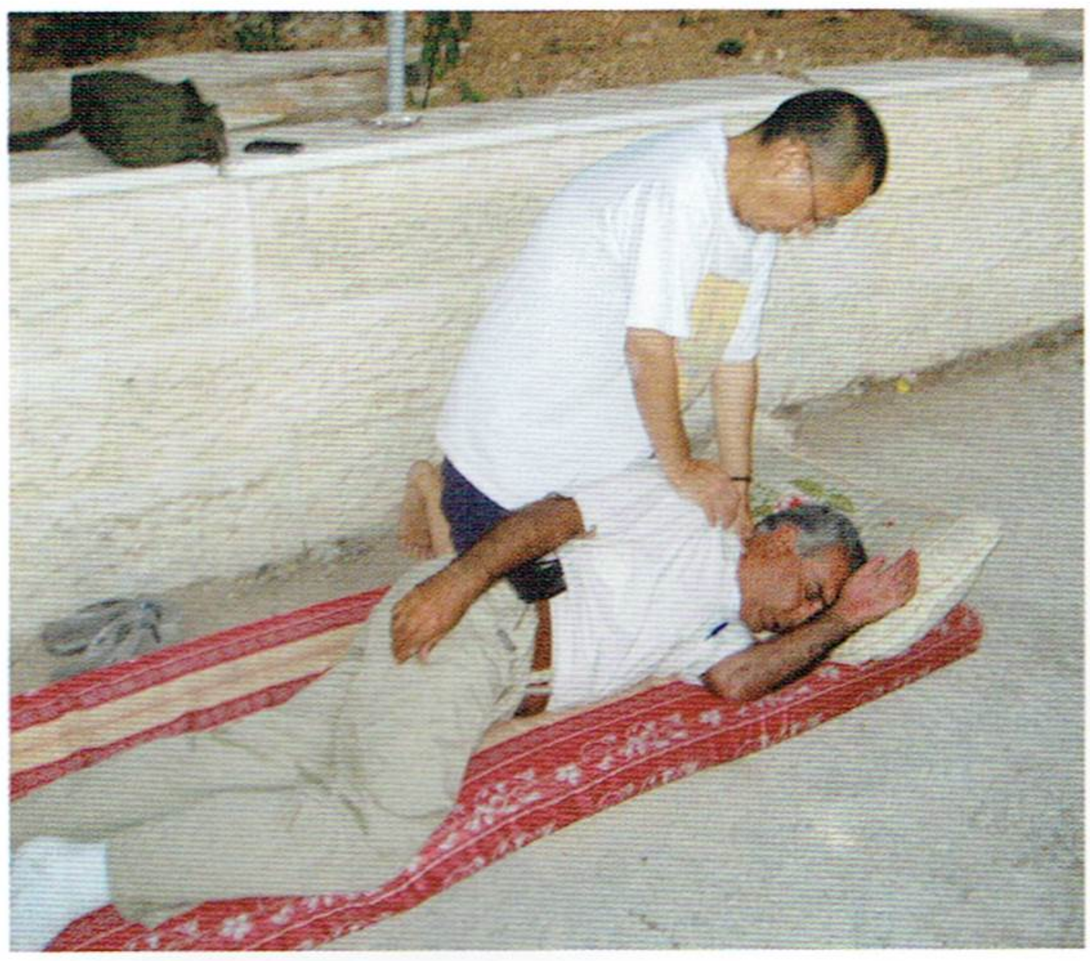
海外で講演される遠藤先生

び、東京からヨーロッパまでは空輸します。そして戦後70年ですし、ヨーロッパの各地で仏教・キリスト教・ユダヤ教・イスラム教の宗教合同の礼拝を企画しています。世界各地でそういう宗教融合を図っていく計画です。7月5日が、広島（ハノーバー庭園）、京都（円山公園）が12日、東京（増上寺）が19日で、その後ヨーロッパに向かいアウシュビッツなどを巡礼します。そしてベツレヘムでは8月6日の広島の原爆投下日に行い、8月9日の長崎の原爆投下日に、エルサレムで行うことになっています。

本誌：壮大な計画で、実現を楽しみにしています。最後に、先生の創始されたタオ指圧についてお願いいたします。

遠藤：タオ指圧がどういう治療かを簡単に言えば、邪気を出すというところが特徴のひとつかと思います。邪気が排出されれば、病気は治ります。そしてツボは邪気を排出するための治療点です。もっともタオ指圧で言うツボは、いわゆる経穴として客観的に固定されたところではありません。心の中に見て、実際に響きを持って邪気を排出させることができるものです。タオ指圧の教室では、そのための心身のトレーニングを実践的に学べるようにしています。

人間の心身に、邪気を排出するツボが現れるように、地球を人体と同じように認識した場合、地球にも経絡があり、もちろんツボもあるわけです。そのような個所、地球のツボを巡礼し異宗教合同で祈り、ピースコンサートやチャリティーマーケットをすることで、邪気を正気に転換させ、浄化したいと思っています。地球全体をひとつのいのちに見立てるということです。人から、壮大な考えだねと言われますが、まあ



パレスチナ難民への路上指圧。
NPOユニ活動

広島原爆で体内被曝された方との約束

心は無限ですから…。

本誌：タオ指圧の広がりと今後の活動についてはいかがですか。

遠藤：タオ指圧はいま、北米に3ヵ所のセンターがあります。ヨーロッパでは、オーストリア、イタリア、スペインなど4ヵ所。その他、フランスやオランダなどにも連絡事務所となっているところがあります。それぞれ各地でワークショップや臨床などを行い、また様々な活動しています。

今後については、先ほどのアースキャラバンのことで、もう一杯一杯ですね。(笑)

ちょっとパレスチナの話をしますと、実際に行ってみると、一般的なニュースで知られているのとは全く違うのですね。例えば一般的に、パレスチナという国があって、イスラエルと戦争していると言われています。でも実際には、イスラエルに占領された自由のない状態で、独立国ではありません。パレスチナ人は土地を奪われ、学校や病院に行くことすら検問所で何時間も待たされ、人が死んでいる。特にガザは、50万人が閉じ込められた収容所です。閉じ込められた人たちが一方的に爆撃されて死んでいるというのが、実体です。なぜ私がこの話をしているかというと、昨年の夏、ガザ空爆中のパレスチナ西岸に行き、パレスチナで大きな人権団体をやっているリーダーたちに、「一緒にこのアースキャラバンをやろう」と言ったんです。でも彼らに、「これまで外国からいろいろな人がやってきて、イベントをやろうと持ち掛けられてやってきたけれど、終わると彼らは帰ってしまう。そして我々が占領されて自由を奪われている状況は何も変わらない。それだったらやりたくない」と言われたのです。

だから私は、「分かった、パレスチナが解放されるまで私たちは毎年続けるから」と約束したのです。もうひとつ、「もし広島・長崎の日に合わせてくれたら、必ず広島・長崎の残り火をもっていくから」と約束しました。だからこれは、必ずやらなきゃならないのです。

一方日本でも、アースキャラバン広島の実行委員には、被曝二世が二人、また広島原爆による胎内被曝者の石見さんという方がおられます。石見さんには、「自分が死ぬまでアースキャラバンを続けてほしい」といわれています。広島にもパレスチナにも約束しているので、アースキャラバンは続けていかなければなりませんね。

また、インドなど、他の国からもアースキャラバンに加わってやっていきたいという話があります。地球の新しい未来を開くためのムーヴメントは広げていきたいと思っています。

経絡も気も、心が基本です。エゴにまみれた人間が気を出しても、それは邪気ですよね。

だから臨床家を育てるにしても、やはり他者に共感し、他者の幸福に最大の関心を払える人でないと経絡が認識できません。タオ指圧は、増永先生の経絡指圧の精神を受け継いでいます。こうした活動を広げていく中で、本当に自他の幸福のために生きる臨床家を育てていきたいというのが私の願いです。またこれが、増永先生のご恩に報いることだと思っています。

皆さんには、アースキャラバンの会場には来て頂くことでご参加いただけたらありがたいですね。

本誌：アースキャラバンを控え、お忙しいなか、貴重で刺激的なお話をありがとうございました。アースキャラバンのご成功をお祈りいたします。

遠藤：ありがとうございます。

【タオ指圧入門修練コース】

タオ指圧の臨床効果が世界８国で実証され、「奇跡の手を伝える」と言われているのはなぜか？
タオ指圧は、ツボと経絡の真実を明らかにした実践治療。
仏教を土台とした、運命転換をもたらす。

［期　間］全６ヶ月、月に２日間（10：00～17：00）／土日・月火の２つのコースがあります。
京都・東京各センターで、年１度のみ開講されます。

［場　所］京都タオサンガセンター（京阪三条駅下車 徒歩３分）
東京タオサンガセンター（都内 JR中央線中野駅下車 徒歩約10分）

［受講料］96,000円（分割相談可）
※事前に行なわれる『ブッダと氣の幸福力ワークショップ』（￥1000）の受講が必須です。

お問い合わせ／お申込み先 mail：class@taoshiatsu.com
TEL：京都 075-551-2770　東京 03-3385-7558　HP：taoshiatsu.com